

が消えて春になるとその穴に子供をなしていたんだど。

ある時子供達がいたずらつ氣を起こしてその穴に棒を何回も何回も突っ込んだところ、突然、親キツネと思われるキツネが飛び出してケンケン泣きながらうしろを振り返り振り返りしながら、逃げて行つたんだど。子供達は仕返しを恐れて家に逃げ帰りそのことの話をしたら、親達は

「キツネに申し訳ないことをした。」

と言って、キツネの喜んで食べる小豆飯にニンジン漬けや油揚げなどをかわるがわる持つていったんだど。

ご馳走をもらったキツネは、その後も、村の人達に仕返しをしたり、だましたりしなかつたんだど。